



SPE日本支部ニュースレター

INSPIRING PLASTICS PROFESSIONALS

発行：SPE日本支部 東京オフィス、東京都千代田区内神田3-2-12 陽光ビル6F (株)プラスチック・エージ内

2018年度概況

2019年度支部長挨拶

2019年度理事会

2018年度講演会

2018年度会計報告

2018年度支部名簿

2019年度本部概要

| | 日時 | 運営 | 行事 |
|--|------------|--------|------------------------------------|
| | 2018/08/02 | 理事会・総会 | ANTEC, 精密加工等講演会 |
| | 2018/10/12 | 運営委員会 | 高機能・高性能エラストマー・ゴム材料 |
| | 2018/11/29 | 運営委員会 | 環境・エネルギー分野におけるセルロース・バイオマス材料の役割と可能性 |
| | 2019/02/01 | 運営委員会 | 第12回 NANO/SPE合同講演会 |
| | 2019/04/19 | 運営委員会 | 自動車に使われる素形材における樹脂の位置づけ |
| | 2019/06/28 | 運営委員会 | 最新の機能性フィルムの動向紹介 |

2018年度の主な運営行事として8月02日の理事会、総会。続いて運営委員会は10月12日、11月29日、2月01日、4月19日、6月28日の5回開催した。

2019年の理事会では庶務業務に関わる規定として、(弔慰)と(個人情報の取扱)を確認した。個人情報の取扱については以下、会費徴収、本人への広報、講演者の要望による参加者名簿(氏名、所属)の提供、本会理事会で承認された情報の提供等とした。詳細については会員委員を通じて内規を確認ください。会員について：本支部の支部長、名誉会員として支部の発展に寄与された、旧三菱油化役員、元王子油化合成紙社長の高島さん(享年93歳)が2019年1月26日永眠された。協会としては葬儀当日、高島さんへ供花と2月1日の講演会で黙祷を持って長年の功績を讃えた。

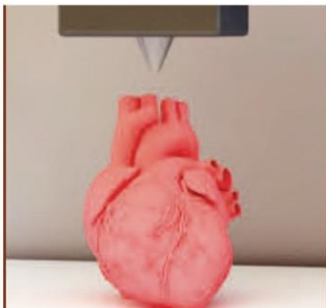
2018年度の主な行事として、西辻理事企画の2018年8月02日の「SPE-ANTEC 精密加工等講演会」伊藤、溝元理事企画の2018年10月12日の「高機能・高性能エラストマー・ゴム材料」、泊、川崎、馬場、梅田理事企画の2018年11月29日の



2019/04/19 住友ベークライト会議室

「環境・エネルギー分野におけるセルロース・バイオマス材料の役割と可能性」、金、田代理事企画の2019年2月01日の「第12回 NANO/SPE合同講演会」、小林、長岡理事企画の2019年4月19日の「自動車に使われる素形材における樹脂の位置づけ」、葛良、荻原理事企画の2019年6月28日の「最新の機能性フィルムの動向紹介」等6回の講演会を開催した。

参加者は187名(2018年度198名)であった。2018年度の決算は約42万円弱の黒字であった。2019年6月30日付けの支部会員数は正会員44名、(内、法人会員3社、名誉会員は1名)であった。本部関連はMr.Brian Landesは、プラスチック技術者協会(SPE)の2019-2020の会長を務めます。彼はDow Inc.の技術リーダーの一人である。



2019年度役員(2019/7-2020/6)(敬称略)



溝元 長岡 金 葛良 西辻 小林 梅田 及川
田代 伊澤 荻原 伊藤 川崎 馬場

上記写真では泊、小滝、辻脇各理事、及び浅山監査
* 永井相談役が欠席している。



伊藤浩志
SPE日本支部長

今後のプラスチックに思うこと

2019年6月、大阪で20ヶ国・地域首脳会議（G20サミット）が開催され、議題の中で、プラスチックごみ・温暖化対策が大きな話題になった。マイクロプラスチック問題に代表される、プラスチックごみ、海洋ごみの問題は、全世界で活発な議論がなされる一方、プラスチックの使用制限、プラスチックそのものが「悪もの」扱われている状況である。この会議の中で、プラスチックの重要性を認識しつつも、成果をまとめた首脳宣言では新たな海洋プラスチック汚染を2050年までにゼロにする事を目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有し、プラスチックごみの流出を減らすなど、包括的なアプローチによって海洋プラスチックごみによる汚染の削減を目指すこととなった。一部の環境団体は、この宣言では、その実行性が不明確であり、より短期間での取り組みを要求しているものもある。さらに、環境への配慮からプラスチック製品自体の削減の動きが加速し、スーパーではレジ袋の有料化が進み、コンビニ各社も削減や代替品の活用を検討している中、プラスチックの教育、研究、開発、生産に携わる我々は今後、これらの動向を注視していくことはもちろん、様々な対策等も提案していく重要性を認識している。

最も重要な課題は、廃棄物の管理と、特に中国、ASEANを中心とした新興国がより便利な生活を過ごす為のプラスチックの利用、その廃棄管理、リサイクル・リユースの技術推進であることは明白である。この点において、日本はイニシアティブを発揮し、環境低負荷型プラスチック開発やその利用法など、基礎研究から応用開発までを諸外国と連携する必要があると感じている。

環境に配慮しながら、プラスチック製品の高度な使用要求に応えるためには、材料面からのアプローチとして、①非石油由来および低エネルギー合成技術による分子鎖構造制御、②ナノスケールの構造制御によるタフネス化と分解技術、③工業物性とコストを満足する為のポリマー・ナノアロイ、セルロースなどの非石油由来資源利用コンポジット、などが挙げられる。特に、低コスト化に集約される、既存の材料やリサイクル・リユース材料、既存製造設備や従来の成形プロセスを利用した新たな材料形態や構造を制御と、成形品を高機能化することが求められている。

プラスチックが開発されて既に100年が過ぎ、これまで数多くの材料が開発されてきた。今後ますます重要であるコスト削減、環境リサイクル・リユース性までも考慮する必要があるプラスチックやその成形加工という「ものづくり」においては、今後とも、様々な研究者、技術者が一同に介して、より強固なネットワークのもとに日本のプラスチック技術を展開することが必要である。プラスチック技術者（Society of Plastics Engineers）日本支部は、広範囲な産業分野の高分子材料・合成樹脂の材料や加工技術のプロフェッショナル技術者が集まっている。今後とも、時代に沿った研究・技術の講演会、見学会を通じて、プラスチック分野の最新・最先端技術や基礎研究の話題を提供していく必要がある。今後とも、強固な会員ネットワークのもと、相互研鑽と会員のブレークスルー実現に向けて、着実に活動していく所存である。本分野に携わる多くの技術者のSPE日本支部への参画をお待ちしている。

| 2019年度 | | | |
|----------|--------|--------------|----|
| 役割 | 名前 | 所属 | 備考 |
| 支部長 | 伊藤 浩志 | 山形大学 | 継続 |
| 副支部長 | 川崎 真一 | (株) KRI | 継続 |
| 副支部長 | 泊 清隆 | 大阪市工研 | 継続 |
| 副支部長 | 荻原 学 | 日本ゼオン(株) | 継続 |
| カウンセラー | 小滝 雅也 | (株)カネカアメリカ | 継続 |
| 会計委員 | 及川 昭 | 住友ベークライト(株) | 継続 |
| 会員委員 | 荻原 学 | 日本ゼオン(株) | 継続 |
| セクレタリー | 溝元 均 | 旭化成株式会社 | 継続 |
| WebNL/広報 | 田代 昌秀 | MSA研究会 | 継続 |
| | | | |
| 理事 | 長岡 猛 | 長岡国際技術士事務所 | 継続 |
| 理事 | 葛良 忠彦 | 包装科学研究所 | 継続 |
| 理事 | 馬場 文明 | 三菱電機(株) | 継続 |
| 理事 | 梅田 杉也 | (株)インファルト | 継続 |
| 理事 | 金 容薫 | (株)古河AS | 継続 |
| 理事 | 西辻 祥太郎 | 山形大学 | 継続 |
| 理事 | 小林 豊 | (株)プライムポリマー | 継続 |
| 理事 | 辻脇 伸幸 | 積水化成成品工業株式会社 | 継続 |
| 監査 | 浅山 基弘 | プラスチック・エージ | 継続 |
| 監査 | 伊澤 横一 | ナノ構造ポリマー研究協 | 継続 |
| | | | |
| 相談役 | 永井 進 | 合成樹脂協会 | 継続 |



2018年度の主な行事

| 日時 | 参加 | 行事 | 演題 | 会社 | 講師 |
|------------|----|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------|-------|
| 2018/08/02 | 22 | SPE-ANTEC2018紹介講演会 | フェノール樹脂製軽量エンジンへの挑戦 | 住友バークライト株式会社 | 谷澤 秀実 |
| | | | 電池の全固体化で何が変わるのか | 出光興産(株) | 樋口 弘幸 |
| | | | 低温・凍結粉砕と応用例 | 大阪ガスリキッド (株) | 長野 龍馬 |
| | | | NPE2018とANTEC2018参加報告 | 金沢大学 | 瀧 健太郎 |
| 2018/10/12 | 31 | 「高機能・高性能エラストマー・ゴム材料」 | 熱可塑性ポリエステルエラストマーの大変形挙動の解析 | 東洋紡株式会社 | 磯貝悠美子 |
| | | | 環動構造を有するポリロタキサン機能性材料 | アドバンスト・ソフトマテリアルズ | 野田結実樹 |
| | | | 高機能フッ素ゴムAFLAS, FFKM 新製品のご紹介 | AGC株式会社 | 八木 啓介 |
| | | | サステナブル社会の実現に向けた次世代タイヤ材料 | 株式会社ブリヂストン | 会田昭二郎 |
| 2018/11/29 | 25 | 環境・エネルギー分野におけるセルロース・バイオマス材料の役割と可能性 | 「時限」生分解プラスチックの実現に向けて | 群馬大学大学院理工学 | 粕谷 健一 |
| | | | 好熱菌由来の酵素を用いたセルロースアセテートの分解とその利用 | (地独) 大阪産業技術研究所 | 森芳 邦彦 |
| | | | (地独)大阪産業技術研究所(森之宮センター) 施設見学 | | |
| | | | 生分解性樹脂であるポリ乳酸の高機能化について | Bioworks株式会社 | 寺田 貴彦 |
| 2019/02/01 | 27 | 第12回 NANO/SPE 合同講演会 | SDGsに貢献するGSCの推進とJACIの役割 | 公益社団法人 新化学技術推進協会 (JACI) | 片岡 正樹 |
| | | | 微生物産生分解性ポリマー-カネカ生分解性ポリマー | カネカ株式会社 | 福田 竜司 |
| | | | 内湾・陸水におけるマイクロプラスチック汚染の現状と最新の研究事例 | 京都大学 | 田中 周平 |
| 2019/04/19 | 60 | 「自動車に使われる素形材における樹脂の位置づけ」 | 熱可塑複合材料を用いた衝撃吸収体の研究紹介 | 本田技術研究所 | 彌武 朋也 |
| | | | 異種繊維混合による繊維複合材の耐衝撃性向上技術紹介 | トヨタ紡織 | 前川 元貴 |
| | | | 次世代モビリティ実現のためのプラスチックソリューション | SABIC | 齋藤 裕人 |
| | | | エンプラの最新動向 | BASFジャパン | 山本 勇 |
| 2019/06/28 | 22 | 最新の機能性フィルムの動向紹介 | 最新の機能性フィルムの紹介 | KT Polymer | 金井 俊孝 |
| | | | ゼオノアフィルムについて | 株式会社 オプテス | 赤谷 晋一 |
| | | | 自動車外装用加飾フィルム『PLANEXT Film』の開発 | 帝人株式会社 | 山中 克浩 |

2018年度の講演会は21名の講師の方による6回の講演会及び(地独)大阪産業技術研究所(森之宮センター) 施設見学等で計187名の参加者を得た。

講演会では、2019年04月に行われた、「自動車に使われる素形材における樹脂の位置づけ」講演会が60名の参加で最多であった。自動車関連は相変わらず、人気が高いようである。





2018年度決算報告

| 損益計算書 (2018/07/01-2019/06/30) ￥ | | | |
|---------------------------------|---------|---------|---------|
| 収入の部 | | 支出の部 | |
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 |
| 入会金 | | 本部年会費 | 0 |
| 支部年会費前受 | 550000 | 米国送金手数料 | 0 |
| 支部年会費 | 190000 | | |
| 本部レポート | 0 | | |
| 例会、セミナー | 1125000 | 例会セミナー | 846089 |
| | | | |
| 雑誌図書代金 | 0 | 雑誌図書代金 | 0 |
| 銀行利子 | 28 | 通信費 | 3782 |
| 雑収入 | 12033 | 広告宣伝費 | 589476 |
| | | 旅費交通費 | 0 |
| | | 事務用品費 | 0 |
| | | 雑費 | 21373 |
| 小計 | 1877061 | 小計 | 1460720 |
| | | 今期収支差額 | 416341 |
| 前期繰越金計 | 1920576 | 次期繰越金 | 2336917 |

編集後記

米中の貿易戦争、日韓の貿易管理紛争、はつきりしない状況が続いています。世界はここしばらく混沌とした時代が続くのでしょうか？ 携帯電話のmarketの拡大が止まってきました。気候変動は益々、色んな事象、台風の大型化、夏期の温度上昇、極地の山火事等を引き起こし、この事象に対する人間社会の反応として、エネルギー産業に対する投資の減少（既に投資された膨大な資金のバブル化が懸念され始めました。）が起こるのでしょうか？ *me*

日本を元気にする新素材の開発に向けて



SPE日本支部
理事
小林 豊

私は、SPE日本支部の理事として自動車分野の企画を担当してきました。小規模でクローズドな学会であることを強みとして、海外動向と企業開発に重点した、知りたいことが聞ける講演会に努めてきました。講演を引き受けて下さった方々は大きくは二つに分かれます。社会貢献のためという人、そして、自分が研究開発した成果を外部に問うてみたいという人です。いずれにしても、新しい高分子材料の開発を活性化したいという想いの下に協力していただきました。

一方、「重化学工業」という言葉は遠くなり、「高分子」という言葉さえ大学の学科名称から消滅しつつあります。若手の減少と、かつて先端を支えた多くの旧技術者のアンバランスは、今後のSPE日本支部の活動に影響してくると思います。私自身は、新しい物事を生み出すことが、企業研究者としてのモチベーションでした。自分の能力が科学技術の進歩に貢献できなくなった時が、潮時と決めていました。その時が近づいて、開発意欲のある人にバトンを引き継ごうとしています。そんな私の希望を述べるならば、SPE日本支部は、新鮮な話題を新鮮な技術者が共有し議論する場を提供して欲しい。

私に託されていた偉大な先輩方から知識技能が、企業内でも完全に伝承できたわけではありません。普遍的な技術として解説できる状況ではありません。ですから、身に着けた技術が求められれば開示を惜しむものではありません。SPE本部は、会員間での技術交流を活性化する方向に舵を切っています。しかし、日本には高分子系の学協会が充実しており、SPE日本支部の役割としては議論の余地があります。最後になりますが、日本発の新しい素材が生み出されていく活力が湧き出すSPE日本支部であることを期待しています





President (2019-2020)

DR. BRIAN LANDES

Dow INC.

Tel: +1 989.430.3759

Email: blandes@4spe.org

ダウの技術リーダーであるBrian Landesは、プラスチック技術者協会 (SPE) の2019-2020の会長を務めます。Dowのシニアバイスプレジデント兼最高技術責任者であるAN Sreeramは、次のように述べています。「私たちは、Brianがこの重要な業界委員会を優れた洞察とプロ意識でリードし続けることを知っています。そして、彼のリーダーシップに感謝します。」 Landesは、SPEのスタッフおよびメンバーと協力して世界中のプラスチック専門家を団結させ、ネットワーキング、イベント、トレーニング、および知識の共有を通じてスキルの向上とスキルの向上を支援する理事会を率います。協会での現在の役割に選出される前は、Landesは副社長/ Technology & EducationとしてExecutive Boardに勤務していました。彼のSPEへの参加は、大学院生からダウでの約35年にわたる彼の経歴にわたります。SPEの最高経営責任者 (CEO) であるPat Farreyは、次のように述べています。「3年間、テクノロジー&エデュケーション担当副社長を務め、SPEの会員を認め、豊かにする新しい世界的イニシアチブの開発と実施を指揮しました。協会の会長としての同僚による彼の選挙は、彼のリーダーシップ、ビジョン、重要な貢献、そしてサービスに対する私たちの会員の認識を明確に示しています。」

SPE EXECUTIVE BOARD



| | | | | | | |
|--------------------------|---------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---|------------------------------------|
| Scott Eastman Section | Brian Landes President | Bruce Mulholland Events | Jaime Gomez President-elect | Brian Grady Past president | Raymond Pearson Technology & Education | Lynne Nebel Young Professionals |
| | Jason Lyons Division | Teremy Dworshak Business & Finance | Conor Carlin Marketing | | Patrick Farrey CEO | |

ANTEC® 2019



Women's Panel at ANTEC® Offers Advice, Inspiration



Ocean Plastics: Ripe for New Thinking?

SPE Japan Section 入会要項

SPE 日本支部正会員 (議決権あり)

<http://spejapan.org/index.html> から日本支部入会手続きをクリックして手続きできます。

SPE 本部会員 (議決権なし)

<https://www.4spe.org/i4a/pages/index.cfm?pageid=3275>

